

〈本郷キャンパス〉
学校法人文京学園
文京学院大学外国語学部・経営学部・
人間学部・保健医療技術学部／大学院
／文京学院大学生涯学習センター
〒113-8668 東京都文京区向丘1-19-1
☎大 03-3814-1661 生涯 03-5684-4816
文京学院大学文京幼稚園
〒113-0023 東京都文京区向丘 2-4-1
☎幼 03-3813-3771

〈ふじみ野キャンパス〉
文京学院大学人間学部・保健医療技術学部
／大学院／文京学院大学ふじみ野幼稚園
〒356-8533 埼玉県ふじみ野市亀久保1196
☎大 049-261-6488 幼 049-262-3806
〈駒込キャンパス〉
文京学院大学女子高等学校／文京学院
大学女子中学校
〒113-8667 東京都文京区本駒込 6-18-3
☎03-3946-5301



令和3年(2021年)
9月30日
第770号
発行
学校法人文京学園
http://bgu.ac.jp

中高卒業生

中学・高校時代に自身の課題と謙虚に向き合い、最大の努力を積み重ねた卒業生が、スポーツ界・理系研究分野で大活躍しています。
生き生きと活動中の卒業生3名について紹介します。(2面にも記事掲載)

「パラリンピック」シッティングバレーボールで活躍

小方 心緒吏選手 (2003年高校卒業)

「東京2020パラリンピック競技大会」シッティングバレーボール(床に臀部の一部をつけたまま行う6人制スポーツ)に、本校の卒業生・小方選手が出場。8月27日、幕張メッセで開催した女子1次リーグ対イタリア戦で、小方選手はチーム最多8得点を上げましたが、初戦敗退。29日・対ブラジル戦、9月1日・対カナダ戦、3日・対ルワンダ戦で0-3で敗退し、8位となりました。小方選手は、過去にも北京パラリンピック(8位)、ロンドンパラリンピック(7位)への出場経験があります。

中学校在学時にバレーボール部に所属し、エースアタッカーとして活躍。中学3年時に右大腿骨肉腫を患い、1年以上にわたる入院治療

の後、高校1年で復学。バレーボール部にも復帰し、マネージャーとしてチームを支える中で、パラリンピック競技であるシッティングバレーボールと出会いました。勉強と同部マネージャーを両立しながら、シッティングバレーボール選手としてクラブチームでの練習にも励み、2008年に女子日本代表に選出され、代表合宿に参加し、チームを支えるエースアタッカーとして活躍しました。現在は東京都北区役所での勤務と育児に励んでいます。

2019年10月23日に開催した文京学園創立95周年記念式典では、これまでの体験や想いを語り、出席者の心を打ちました。



小方選手(左)と高校時代の監督清水直樹現高等学校校長(右)

大学

ふじみ野キャンパス 奇跡の花 「リュウゼツラン」開花



リュウゼツランの美しい花が満開

大学開学30周年の今年、ふじみ野キャンパスで、50年に一度きりの花を咲かせる「リュウゼツラン」が開花しました。これはメキシコ原産のリュウゼツラン科の多肉植物で、本学のリュウゼツランは高さ8mにも達しました。リュウゼツランは、本学の発展に顧問として尽力された大野信三経済学博士宅で大切に育てられたもので、1997年に同氏が逝去され、その想いを継承する誓いとして、1998年に同キャンパスに植栽しました。この夏、見事な黄色い花が咲き誇り、新型コロナ感染対策を講じた上で、近隣住民にも一般公開され、約2千人の見学者が訪れました。



高さ8mに達したリュウゼツラン

大学

米国会計研究学会に経営学部教授と学部生が登壇

8月2日から4日にオンラインで開催された2021年度米国会計研究学会年次大会において、8月2日に開催されたワークショップ「会計研究における教員-学生コラボレーション」(Faculty-Student Collaborations in Accounting-FAS TCA-21)に、経営学部の中島真澄教授と中島ゼミに所属する経営学部2年生の吉田翔太さんが登壇し、英語で発表しました。同学会には、今年11大学が参加し、アジアからは3大学、日本からは本学が唯一の登壇となりました。発表し

た2人から次のコメントが寄せられました。

中島教授「本学におけるゼミナール教育の成果を同学会において海外の大学関係者に報告できたことをうれしく存じております。ゼミ生が真摯な努力の結果、快挙を成し遂げたことを誇りに思います」

吉田さん「米国会計研究学会という大きな舞台で研究成果の発表という貴重な機会を頂けたことに感謝しています。この経験を活かし、今後も何事においても挑戦を続けていきます」



オンラインで登壇した中島教授(左)と吉田さん(右)

大学

新型コロナウイルスワクチンの職域接種を実施

8月30日から9月5日まで(1回目)、9月23日から30日まで(2回目)、併設校の生徒・学生・教職員の希望者を対象にした新型コロナワクチンの職域接種を、本郷キャンパスにて実施しました。今後も学生および教職員が安心・安全に様々な取り組みを実施できるよう、新型コロナウイルス感染症拡大防止の一助となる取り組みを積極的に進めていきます。

GREEN SPIRITS



経営学部将来構想に向けて

経営学部
学部長・教授

新田 都志子

今年、大学創立30周年であり、日本初の女子大経営学部として開学して30年になります。そのような節目の年に女性として初めて経営学部長となったのも何かの縁かもしれません。

私が本学に赴任したのは男女共学になってからですが、この30年間で振り返ると経営学部は常に時代を先取りし、新しいことにチャレンジしてきたことがわかります。コロナ禍で学部改革が当初計画より遅れましたが、現在は2023年に向けて新しく生まれ変わるべく新たな構想を練っているところです。AIやIoT、ブロックチェーンなどの革新的なデジタル技術が進展し、それらが膨大かつ多種多様なデータの収集・分析を可能にしたことで、社会のあり方が大きく変わってきました。このDXの波は、新型コロナウィルス感染を契機に想像以上に加速化され、も

はや止まることはありません。テクノロジーにより、ビジネスのあり方そのものが変化し、さまざまな業種・業界のバリュー・チェーンにも変化が起きています。社会ではこのような変化に素早く対応できる「人材」の育成が求められており、大学教育においても社会や企業のニーズに答えられる学生の教育が急務です。全ての学生が自ら考え、主体的に行動できるようにするために、学びの考え方もカリキュラムも大幅に変えていきます。

経営学部は、伝統的に「ゼミナール主義」を謳い、3年間一人の先生のもとで学ぶことを重視してきました。しかし、これからは伝統の良さは活かしつつ、1、2年次では一人の学生が多くの先生と接し、多様な学びができるように設計変更いたします。また、知識習得型の学びだけではなく、経営学部の実践的な学びの楽しさや解決困難な課題への挑戦を早めに経験してもらうために、1年生からリアルな社会課題を発見し、解決する課題解決型のPBLに少人数チームで取り組んでもらいます。先輩学生を活かし、ロールモデルとしての姿を見せることも大事です。

文京学院大学を卒業した学生は、ビジネスの現場で通用する知識や技術、マインドを持ち、新しい時代のビジネスパーソンとなるよう、これからも教職員一同、一人ひとりと真摯に向き合い、成長を支えて参ります。

中高卒業生

卒業生の活躍

「鳥人間コンテスト」に向けて活動中

増本雛乃さん 工学院大学工学部機械工学科2年（2019年高校卒業）

増本さんは高校時代に「トライアングルに関する研究活動」に取り組み、「サイエンスキャスルTV」や「早稲田理工 by AERA 2019」（朝日新聞出版）より取材を受けました。

大学では、「鳥人間コンテスト」に向けて活動中で、この夏、所属チームが「鳥人間コンテスト2021」に出場。増本さんは、機体の翼部分を製作する翼班に所属し、機体製作を実施。機体が完成し、飛んでいる姿を見た時は大変感動したそうです。また、新入部員を増やす目的でチームのTwitterで機体製作の様子を投稿し、活動を発信しています（Twitter：@bpwendy2021）。

現在は、次期会計を担いつつ、CADでの図面製作の練習に励み、レーザー

加工機の使い方も習得中です。

高校時代の学びを通じて、増本さんは「実験中に少しの変化や気づいたことをメモすること、数値結果なども根気強く記録することの大切さ」や、「分かりやすくまとめて発表する方法」を体得しました。「スライロ（断熱材）スライス」の試作でも「トライアングルの研究」から学んだことを活かしています。

後輩には、次のメッセージを寄せました。「大学では、高校時代から研究をしている人は周りにあまりいません。研究を行う工程は、疑問点を持ち仮説を立て実験を行い記録し、まとめて発表することです。これは何をやるにしても役に立つことですから、皆さんも高校時代に研究を精いっぱい行うことを強くお勧めします」



リブセツ（翼の断面を軸に通って接着する作業）を行う増本さん（左）

ロケット製作に夢を乗せて

神原日向さん 千葉工業大学工学部機械電子創成工学科1年（2020年高校卒業）

神原さんは高校での3年間、「ペットボトルロケットの研究」に取り組みました。高校時代に参加した大会では、滞空時間の延長のミッションを担当し、パラシュートの素材に目をつけ、様々な素材のパラシュートを用いて落下実験を行い、素材を決定しました。半年間、チームのメンバーで協力してロケットを作り上げて打ち上げ、達成感を感じました。この経験がきっかけでロケットに興味を持ち、宇宙工学系の大学への進学を決めました。

現在、神原さんが大学のTA（指導員）として参加している「ロケットガール&ロケットボーイ養成講座」は、参加した高校生に「ハイブリットロケット」を作ってもらい、それを打ち上げるプロジェク

トです。また、自分たちでもロケットを製作。機体の接合部の設計と製作、飛行中に加速度などを計測するセンサーのプログラミングを担っています。

後輩には、次のメッセージを寄せました。「大学の進学先についてギリギリまで悩みましたが、将来やりたいことを見つけ、それを学べる大学に行きたいと思い、今の大学に決めました。大学進学や就職は、やりたいこと、興味のあることなどを見つけると自分の進路選択の幅が広がり、進路を決めやすくなると思います。そのために、高校生の時間のあるうちに、資格取得や検定だけではなく、校外のイベントに参加し、たくさんのことを経験しておくことが大切です」



神原さん



高校時代に製作した「ペットボトルロケット」

大学 東京消防庁から感謝状を受領

9月5日から11日まで行われた「救急医療週間」に東京消防庁救急部長から救急業務に貢献したとして、9月10日に本郷消防署長が来校され感謝状をいただきました。

これは4年前から大学院保健医療科学研究科の1年生（延べ82名）が、後期の災害医療学・保健医療学特論の授業の一環として、本郷消防署の救命講習会を毎年継続して受講している実績が評価されたものです。東京消防庁からの表彰は3年連続となります。本学では、今後も、地域貢献につながる活動を実施していきます。



宮川克広署長（左）と森岡俊也統括ディレクター（右）

大学 夏のインターンシップを実施

新たな海外・国内でのインターンシップ先を開拓し、8月から9月にかけて、対面もしくはオンラインでのインターンシップを実施しました。

大学では、様々なキャリア支援を実施しており、同インターンシップにおいても学生の期待や熱意に応え、また、旅行業界、税理士業界の人材育成の貢献となるべく、企業と連携して実施を決定しました。キャリア戦略会議委員長の高橋修一郎外国語学部准教授から、次のコメントが寄せられました。



高橋准教授

「『学生時代に力を入れたことは何ですか？』これは、就職活動三大質問の一つです。コロナ禍、就活生はこの質問に苦慮しています。年々早期採用が加速し、採用方法はインターンシップ内定直結型が増加傾向です。企業は、優秀な学生を採りたいが、多くの学生を対面で集めることができない。そのため、サマーインターンシップ参加学生が

ら優先選考をしています。学生の参加メリットは『自己理解を深め、適性適職判断ができる』『意識の高いライバルと出会う』『失敗から学ぶ時間的余裕がある』等です。今後も、インターンシップの学びを最大化する支援に邁進してまいります」



旅行会社で企画書を作成する学生たち

ひたむき・まえむき・おもむき

tomoちゃん

第74回

画：美術部（高校）pアン

